

2026年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2026年6月15日

上場会社名 株式会社クラシコム 上場取引所 東
 コード番号 7110 URL https://kurashi.com/
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木 耕平
 問合せ先責任者(役職名) 取締役CFO (氏名) 山口 揚平 (TEL) 042-577-0486
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無 (当社ウェブサイトにて決算説明動画を掲載予定)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年7月期第3四半期の連結業績(2025年8月1日~2026年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年7月期第3四半期	7,958	22.7	1,392	50.5	1,340	53.9	1,366	54.1	913	60.4
2025年7月期第3四半期	6,485	20.1	925	△11.3	871	△12.7	886	△16.4	569	△17.8

(注) 包括利益 2026年7月期第3四半期 913百万円(60.4%) 2025年7月期第3四半期 569百万円(△17.8%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2026年7月期第3四半期	123	88	—	—
2025年7月期第3四半期	77	23	—	—

(注) 1. EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、2025年7月期第3四半期は潜在株式が存在しないため、2026年7月期第3四半期は希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年7月期第3四半期	7,106	5,876	82.7
2025年7月期	6,296	5,317	84.4

(参考) 自己資本 2026年7月期第3四半期 5,876百万円 2025年7月期 5,317百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2025年7月期	—	0.00	—	48.00	48.00	—
2026年7月期	—	0.00	—	—	—	—
2026年7月期(予想)	—	—	—	55.00	55.00	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2. 2026年7月期の期末配当予想につきまして、詳細は、添付資料P.4「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

3. 2026年7月期の連結業績予想(2025年8月1日~2026年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	10,200	20.1	1,530	31.5	1,453	33.2	1,473	32.5	964	34.6	130	81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 一、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年7月期3Q	7,370,400株	2025年7月期	7,370,400株
2026年7月期3Q	98株	2025年7月期	98株
2026年7月期3Q	7,370,302株	2025年7月期3Q	7,370,354株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、業況の変化により予想数値と異なる可能性がございます。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

当社は、2026年6月15日に決算説明動画を当社ウェブサイトにて公開する予定です。この説明で使用する資料については、TDnetで開示するとともに、当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当社グループは、「フィットする暮らし、つくろう」というミッションを掲げ、当社グループが提案する世界観（ライフカルチャー）に共感する人たちのWell-beingを実現することに貢献します。Well-beingに欠かせない要件の一つが「自分の生き方を自分らしいと感じ、満足できること」＝「フィットする暮らし」だと考え、事業活動を通じて多くの人の「フィットする暮らし」づくりに貢献し、Well-beingな人が大勢いる「心地よい社会」の実現の一助になることを目指しています。

当社グループは、ライフカルチャープラットフォーム事業という、世界観でユーザーと繋がるユニークな事業を展開し、「北欧、暮らしの道具店」「foufou」という2つの報告セグメントを有しております。

① 北欧、暮らしの道具店

当社グループでは、「北欧、暮らしの道具店」の提供している世界観に共感するユーザーに対し、商品、記事、動画など様々なコンテンツを提供することによって、多くの人の「フィットする暮らし」づくりに貢献しております。なお、ビジネスラインとして「D2Cドメイン」「ブランドソリューションドメイン」を有しております。

D2Cドメインでは、暮らしにフィットする商品を販売しております。取扱商品は、アパレル、キッチン、インテリア雑貨が主力であり、自社企画のオリジナル商品が売上の約半分を占めております。また、「北欧、暮らしの道具店」のライフカルチャーを表現する記事や動画等のコンテンツを、自社サイトやSNS等の多様なチャネルから配信するコンテンツパブリッシャーとしての側面も有しております。

ブランドソリューションドメインは、「北欧、暮らしの道具店」の強いブランドとコアな顧客基盤に加え、D2Cドメインのコンテンツパブリッシングで培った高い企画制作能力を活用し、クライアント企業のブランディング上の課題に対する総合的なマーケティング・ソリューションを提供する、ブランディングエージェンシーとしての事業ドメインです。ナショナルブランドを中心に、多くのブランドを継続的に支援しております。

② foufou

当社グループでは、2016年にデザイナーのマール・コウサカ氏が設立したファッションD2Cブランド「foufou」を展開しております。「健康的な消費のために」というブランドコンセプトを掲げ、「foufou」の世界観を表現するコンテンツをSNSで発信して、ユーザーのエンゲージメントを最大化し、購入につなげ、リピーター化する特徴を持つファッションブランドであり、洋服だけでなく、時計や革製品などのファッション雑貨も取り扱っております。

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間は、消費者物価指数においてエネルギー価格は前年比で減少が続き落ち着きが見られる一方、食料価格は依然として前年を上回る水準での推移が続いております。その結果として総合の前年同月比は増加が続いておりますが、上昇幅は1%台前半へと縮小するなど、物価上昇の勢いは落ち着いてきております。実質賃金については、名目賃金の伸びの継続と物価上昇幅の縮小が相まって改善が進み、前年同月比での増加が定着し上昇基調で推移しております。世界経済の不透明さによる不確実性はあるものの、家計の購買力は回復の方向に向かいつつあると判断しております。家計調査によると、二人以上の世帯の実質消費支出は前年同月比での減少が続いており、実質賃金の改善が直ちに消費行動に波及するには至っておりません。当社グループの取扱商品に近いカテゴリである「家具・家事用品」については、当第3四半期を通じて前年同月比での増加が続いており、底堅い動きが見られます。「被服及び履物」については、2026年2月には前年同月比でプラスに転じましたが、その後は再び減少に転じており、厳しい状況が続いております。このように国内消費環境は改善の兆しはあるものの全体として力強さを欠いており、また為替相場の見通しも引き続き難しく、経済の先行きについては不透明な状況が続いていると捉えております。なお、中東情勢による足元の業績影響は軽微であります。

このような経済環境のなか「北欧、暮らしの道具店」は、引き続き著名ブランドのコラボ商品も含めた魅力的な商品の開発による既存カテゴリの規模拡大と中長期の成長を見据えた新しいカテゴリの開発に取り組んでおります。また、新たなチャネル開拓やマーケティング投資による需要の拡大にも継続して取り組んでおり、エンゲージメントアカウント数や購入者数をしっかりと伸ばすことができました。

以上の理由から、当第3四半期連結累計期間における売上高は7,958,865千円（前年同期比22.7%増）、売上総利益

は3,603,238千円(前年同期比24.1%増)、EBITDA(※)は1,392,991千円(前年同期比50.5%増)、営業利益は1,340,478千円(前年同期比53.9%増)、経常利益は1,366,694千円(前年同期比54.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は913,048千円(前年同期比60.4%増)となりました。

(※) EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

セグメント別の経営成績は、以下のとおりであります。

(北欧、暮らしの道具店)

「北欧、暮らしの道具店」は、ヴィンテージ市場で高い人気を誇るARABIA Pomonaシリーズ初の復刻として、プレート、マグ等の計12アイテムを世界に先駆けて販売を開始しました。日本国内では当社限定での取り扱いとなっております。北欧ヴィンテージの取り扱いからスタートした当社事業の原点回帰ともいえるコラボはお客様から大好評を博しています。また、コスメカテゴリでは、スキンケアシリーズにオリジナルの保湿クリームが新登場し、「北欧、暮らしの道具店」商品売上の約5%を占めるコスメカテゴリはさらなる売上伸長を続けています。

また、アプリダウンロード数は好調で2四半期連続で四半期での過去最高を更新しております。外部の代理店への業務委託が中心だった広告のインハウス化(内製化)を進めたことで代理店への業務委託手数料を圧縮でき、その分を広告に投じることで効率が向上しました。加えて、インハウス広告においては、当社スタッフが動画を含め全ての広告素材を制作する体制であるため、インハウス割合の増加により、当店の世界観を理解した当社スタッフが制作した一貫性のある広告配信の割合が増え、広告精度が向上しました。今後もインハウス化を進めることでより高い広告効率を目指してまいります。さらに、オリジナルドラマ『ひとりごとエプロン』が、国内でFOD、Prime Video、U-NEXTなどの定額制動画配信サービスでの見放題配信がスタートし、韓国ではテレビ放送及びデジタル配信が開始されました。このような動画配信サービスなども新しいエンゲージメントチャンネルとなりコンテンツによるユーザーとの接点の拡大に繋がっていくと期待しております。これらの取り組みやエンゲージメントチャンネルへの継続投資によって、売上の先行指標であるエンゲージメントアカウント数は順調に増加し、公式スマートフォンアプリ(iOS/Android)は、当第3四半期連結会計期間末日現在、累計約609万ダウンロードとなりました。当第3四半期連結会計期間におけるアプリ経由の注文数は「北欧、暮らしの道具店」全体の約75%を占めております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における「北欧、暮らしの道具店」セグメントの売上高は7,713,016千円(前年同期比22.1%増)、EBITDAは1,384,059千円(前年同期比48.1%増)となりました。

(foufou)

「foufou」は、2025年11月1日より千駄ヶ谷に大型の旗艦店を正式にオープンし、第2四半期から売上に寄与しています。また、主力のオンラインストアにおいても、足元の需要予測に基づく攻めの在庫準備が可能な体制が整い、Instagramフォロワー数も継続的に伸長する等、グループジョイン以降進めてきたMD改革とマーケティングが奏功し、順調に成長しています。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における「foufou」セグメントの売上高は292,482千円(前年同期比66.8%増)、EBITDAは12,234千円(前年同期は7,689千円のマイナス)となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産総額は、前連結会計年度末に比べ809,968千円増加し、7,106,949千円となりました。これは主に、商品が465,048千円、現金及び預金が242,919千円、売掛金が153,969千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債総額は、前連結会計年度末に比べ250,636千円増加し、1,229,981千円となりました。これは主に、買掛金が161,178千円、未払法人税等が58,221千円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ559,331千円増加し、5,876,967千円となりました。これは主に、剰余金の配当353,774千円を実施したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益913,048千円を計上したことにより利益剰余金が559,273千円増加したことによるものであります。

自己資本比率は82.7%と財務的健全性を維持しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間においては、売上高及び各利益ともに計画どおり順調に推移していることから、現時点では、2025年9月12日に「2025年7月期決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。配当予想については、当社の還元方針に従い足元の状況を踏まえて見直しを行いました。詳細につきましては、本日公表いたしました「配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご参照ください。

当社ではTSR(株主総利回り)を重視した株主還元を行う方針とし、成長投資と株主還元のバランスを考慮したダイナミックな株主還元を行うことでTSRの安定を図ることを目指します。B/Sマネジメントからの最適配当政策が適切であると認識しており、安定した経営に必要なキャッシュポジションの観点から還元可否の判断を行います。また、投資局面においては投資を優先する必要があるため、利益ではなく配当原資はFCF(フリーキャッシュフロー)を基準とし、当面はその50%を上限とします。これにより株主還元、成長投資、内部留保による財務基盤の強化のバランスの取れた配分が可能になると考えております。

具体的には、期末ネットキャッシュ(現金及び預金-借入金)とキャッシュポジションの目標水準(広告宣伝費を除く当期販売費及び一般管理費の2年分)を比較し、期末ネットキャッシュが目標水準を上回っている場合には、還元可能と判断します。その上で当期FCFの50%を原資に還元を行いますが、期末ネットキャッシュが目標を下回らない範囲で行うため、FCFの50%が上限となります。また、FCFを原資とするため、還元可能と判断されても当期FCFがマイナスの場合は、株主還元は行いません。

当社の株主還元方針は現在の経営環境において合理性のあるものと判断しておりますが、状況変化や期待する効果に対する今後の評価などにより適宜見直しを行い変更する可能性があります。変更する場合には、その内容等を適時に説明いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,728,421	4,971,340
売掛金	298,159	452,128
商品	547,536	1,012,585
仕掛品	687	1,568
原材料	16,342	11,371
その他	63,791	61,562
流動資産合計	5,654,939	6,510,558
固定資産		
有形固定資産	223,258	205,848
無形固定資産		
のれん	172,348	156,190
その他	48,172	35,982
無形固定資産合計	220,521	192,172
投資その他の資産	198,262	198,370
固定資産合計	642,041	596,391
資産合計	6,296,980	7,106,949
負債の部		
流動負債		
買掛金	321,375	482,553
1年内返済予定の長期借入金	39,996	39,996
未払法人税等	200,411	258,632
賞与引当金	—	31,827
その他	354,215	383,621
流動負債合計	915,997	1,196,631
固定負債		
長期借入金	63,347	33,350
固定負債合計	63,347	33,350
負債合計	979,344	1,229,981
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,175,730	1,175,730
利益剰余金	4,042,038	4,601,312
自己株式	△133	△133
株主資本合計	5,317,636	5,876,910
新株予約権	—	57
純資産合計	5,317,636	5,876,967
負債純資産合計	6,296,980	7,106,949

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2024年8月1日 至2025年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2025年8月1日 至2026年4月30日)
売上高	6,485,134	7,958,865
売上原価	3,581,336	4,355,627
売上総利益	2,903,797	3,603,238
販売費及び一般管理費	2,032,652	2,262,760
営業利益	871,145	1,340,478
営業外収益		
受取利息	2,618	8,465
配信料収入	12,207	14,401
その他	1,855	4,152
営業外収益合計	16,682	27,019
営業外費用		
支払利息	919	803
営業外費用合計	919	803
経常利益	886,908	1,366,694
特別損失		
減損損失	5,742	—
特別損失合計	5,742	—
税金等調整前四半期純利益	881,165	1,366,694
法人税等	311,937	453,645
四半期純利益	569,228	913,048
親会社株主に帰属する四半期純利益	569,228	913,048

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年8月1日 至 2026年4月30日)
四半期純利益	569,228	913,048
四半期包括利益	569,228	913,048
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	569,228	913,048

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	北欧、暮らしの 道具店	foufou	合計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	6,316,227	168,907	6,485,134	—	6,485,134
外部顧客への売上高	6,316,227	168,907	6,485,134	—	6,485,134
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	6,427	6,427	△6,427	—
計	6,316,227	175,334	6,491,562	△6,427	6,485,134
セグメント利益又は損失(△)	897,233	△24,504	872,729	△1,583	871,145
減価償却費	37,492	657	38,150	—	38,150
のれん償却額	—	16,157	16,157	—	16,157
EBITDA (注) 1	934,726	△7,689	927,036	—	—

(注) 1. EBITDAは、セグメント利益又は損失(△)に減価償却費及びのれん償却額を加えた数値であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引に係る未実現利益の消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)の調整後の金額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年8月1日 至 2026年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	北欧、暮らしの 道具店	foufou	合計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	7,713,016	245,849	7,958,865	—	7,958,865
外部顧客への売上高	7,713,016	245,849	7,958,865	—	7,958,865
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	46,633	46,633	△46,633	—
計	7,713,016	292,482	8,005,499	△46,633	7,958,865
セグメント利益又は損失(△)	1,348,078	△4,297	1,343,780	△3,302	1,340,478
減価償却費	35,981	373	36,355	—	36,355
のれん償却額	—	16,157	16,157	—	16,157
EBITDA (注) 1	1,384,059	12,234	1,396,294	—	—

(注) 1. EBITDAは、セグメント利益又は損失(△)に減価償却費及びのれん償却額を加えた数値であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引に係る未実現利益の消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)の調整後の金額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年8月1日 至 2025年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年8月1日 至 2026年4月30日)
減価償却費	38,150千円	36,355千円
のれん償却額	16,157千円	16,157千円